





最後に、放射線の影響と防護について下記のまとめがあった。

- 放射線は一定量（しきい線量）を超えると、放射線が直接原因となる確定的影響が生じるため、これを防止する策をとる
- 線量が低くなるほど、その影響は放射線以外の要因に比べて小さくなるので、そのバランスで防護策をとる
- 100 mmSv程度の低線量でも、集団レベルで観察して初めて明らかになるリスクが存在することを示す疫学的調査、しかし全ての人を対象とする防護の慎重なリスク予測と、個人が認識するリスク推定をしておく必要がある

今回も全体的に内容の濃い講演であり、もう一度拝聴したいと思ったが、講演概要書の結びの文章が印象的であったので、次に抜粋して紹介する。

「低線量のリスクに対する防護として、事故後に1 mmSv

/年を長期的な目標とする理由は、事故だから平常時と違って高いリスクを受容すべきということを社会は求めているからである。」



© Journal of the Society for  
Remediation of Radioactive  
Contamination in the Environment